



本館入口



©Eiji INA 新館外観

©Eiji INA



EBARA HATAKEYAMA
MUSEUM OF ART
荏原 畠山美術館

荏原 畠山美術館 リニューアルオープン！

令和6(2024)年、荏原 畠山美術館が
リニューアルオープンしました！

新館が建築され、新たに展示スペースが
増えました。本館では茶道具を中心に、書
画、陶磁、漆芸、能装束など、日本、中国、朝
鮮の古美術品を展示公開しています。新館
では新たな領域にも挑戦する企画・展示を
行っています。また、本館入口までの通路脇に
ある日本庭園も歴史を感じさせられます。

高輪地区にまた一つ、魅力的なアート発
信の場所が加わりましたね。

(文/安藤)



美術館入口

(写真/村田)

CONTENTS

P2 街が変わる
荏原 畠山美術館

P3 この街にこの人あり
建築家・岡啓輔さん

P4/5 地域のあしあと
戦中・戦後の高輪

P6 わがまちの保育園紹介
愛星保育園／白金保育園

P7 WONDERLAND みなとプレーパーク
SPORTS 明治学院大学ラグロス部男子
TAKANAWA HOPWAY通信

P8 区からのお知らせ／クロスワードパズル

街が変わる

時を超えて、茶の湯の心と出逢う「荏原 畠山美術館」

約4年半の改修を経て、装いも新たに再始動

●樹齢300年の古木がお出迎え 建築と自然が織りなす静寂の美術館

都営浅草線高輪台駅の改札を出て、住宅街の静かな道を歩くこと5分。門をくぐると樹齢300年を超える古木に静かに迎えられ、落ち着いた雰囲気に取り込まれます。白金台二丁目の一角にたたずむ「荏原 畠山美術館」は、茶道具を中心とした日本・中国・朝鮮の古美術品約1,300点を誇る日本有数の私立美術館です。

昭和39(1964)年の開館から60年の歴史を重ね、令和6(2024)年10月に大規模改修を終えて再開館。今回は、館長・岡部昌幸さん、学芸課長・水田至摩子さんに、展示作品の魅力についてお話を伺いました。

●実業家・畠山一清が託した茶の湯の心 創設者の想いが息づく空間

この美術館を語る上で欠かせないのが、創設者・畠山一清氏(1881-1971)の存在です。世界的ポンプメーカー・荏原製作所の創業者である同氏は、実業家でありながら、能楽や茶道、美術に造詣が深く、生涯にわたり古美術の蒐集に情熱を注ぎました。

茶の湯の精神を深く理解し、「即翁」の号を持つ畠山氏が自ら設計に関わった美術館は、日本建築の意匠を大切にしながら、格調あるたたずまいで静かな威厳を放っています。館内には氏が使用した5つの茶室(港区指定文化財)が現存し、茶の湯の文化を広める美術館として、その精神が受け継がれています。

●国宝6件、重要文化財33件の 珠玉のコレクション 茶の湯の美を今に伝える名品の数々

館内で最も注目すべきは、国宝6件、重要文化財33件を含む珠玉のコレクションです。特に江戸後期の名茶人・松平不昧(不昧公)ゆかりの茶道具は必見の逸品といえます。

取材時(令和7年5月)の展覧会では、落語『井戸の茶碗』のモデルとされる「井戸茶碗 銘 細川」(16世紀・重要文化財)や「唐物肩衝茶入



躑躅図 尾形光琳筆(重要文化財)

銘 油屋」(13世紀・重要文化財)などが展示されていました。特に「油屋茶入」は豊臣秀吉から不昧公に渡ったとされる茶入で、茶入の最高峰と評価されており、一見の価値があります。これらの名品は茶の湯の精神性や歴史的背景とともに紹介され、実際に間近で見ると、その歴史の重みを肌で感じるすることができます。



井戸茶碗 銘 細川(重要文化財)

●4年半の大改修で新たな展示空間 歴史と現代が美しく融合した美の世界

令和6(2024)年10月、約4年半の大規模改修を経て美術館の装いが新たにになりました。展示面積は従来の3倍に拡張され、現代の技術と伝統の美が融合した新たな姿で再スタートを切っています。

新設された新館の外壁には、日本の伝統建築に見られる「なまこ壁」(漆喰と瓦を組み合わせた意匠)が採用され、周囲の庭園との調和が美しく、歴史と現代が自然に融合した空間を演出しています。

展示室で特に印象的だったのは、自然光を巧みに取り入れた設計です。取材で訪れた午後の時間帯には、斜光が作り出す陰影の美しさが作品に独特の表情を与えており、時間帯によって異なる鑑賞体験ができそうです。また作品保護のためのガラスケース

には特殊な処理が施され、茶道具をまるで手で触れられるかのような質感で、臨場感ある鑑賞となりました。

●猿町カフェで味わう 抹茶のひととき

新館1階には、この地域の古称「猿町」にちなんだ名前のカフェがあります。陶芸家・辻村史朗氏による茶碗など、お好みの茶碗を選んで抹茶を楽しむことができます。

茶道具の名品から本格的な美術鑑賞、そして気軽に楽しめる抹茶まで。1日を通じて日本文化の奥深さに触れることができる貴重な空間だと感じました。



紅地金雲雪持椿模様唐織

開催情報

まだまだ見せます 新生 荏原 畠山美術館

中国観賞陶器、青銅器から新収集作品まで

7月26日(土)～9月15日(月・祝)



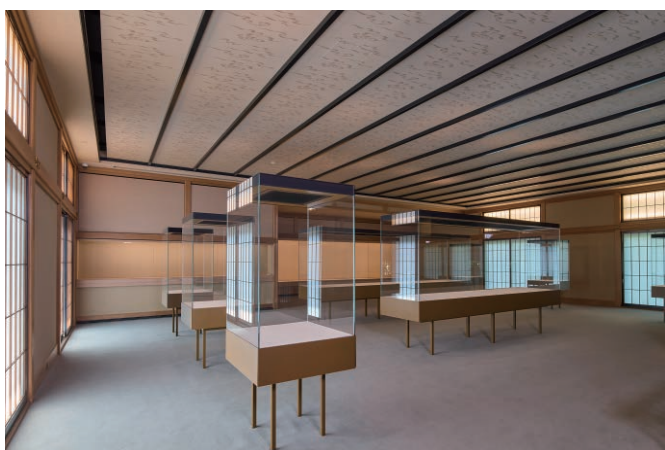
染付龍濤文天球瓶

展示
予定



五彩魚藻文壺

展示
予定



さまざまな手法が取り入れられた展示室

©Eiji INA

所在地…港区白金台 2-20-12
電話…050-5541-8600 (ハローダイヤル)
休館日…毎週月曜日(祝日の場合は翌火曜日)
展示替え期間、年末年始



この街にこの人あり

おか けいすけ
岡 啓輔さん（建築家）

プロフィール

昭和40(1965)年福岡県生まれ。一級建築士。住宅メーカーに勤務後、東京で土木、葺、鉄筋工、型枠大工など現場で経験を積む。
平成15(2003)年蟻鱒鳶ルが「SDレビュー」入選。
平成30(2018)年『バベる! 自力でビルを建てる男』筑摩書房出版。

「踊るように即興の建築を自力で造る」

三田聖坂を歩いて行くと、一際目立つ変わった形のコンクリート4階建ての建物が目に入ります。これが「蟻鱒鳶ル(アリマストンビル)」です。

このビルを自分で設計し、なんと自力で建設中の「三田のガウディ」と呼ばれている建築家・岡啓輔さんからお話を伺いました。



蟻鱒鳶ルの外観

●建築はどのように学ばれましたか？

わたしは、建築の高等専門学校を卒業し、住宅メーカーに勤め、住宅設計を2年ほど経験しました。その後建築現場で働きながら、高山建築学校で建築を学び、自転車で全国の優れた建築を見て回りました。

●「蟻鱒鳶ル」の土地はどのようにして、手に入れたのですか？

2000年に広尾の不動産屋から買いました。40㎡と狭小な崖地で買い手がいない土地とにらんで、かなり値引いてもらいました。港区の一等地としては破格の値段で買いました。

●自力で建物を建てようとした動機は？

ちょうどそのころ、著名な建築家である石山修武さん(早稲田大学名誉教授)が主宰する建築のワークショップがあり、私も参加しました。講師に、建

築家の安藤忠雄さん、建築史家の藤森照信さんなどのそうそうたる方がおられました。約40人が参加し、一人ひとりプレゼンテーションを行いました。

わたしが、コンクリートの建物を自力で建設し、建設中に即興でディテールを変えていく「踊る建築」の提案をしたところ、石山さんに絶賛されました。その言葉に押されて、いつか本当に自力建設を実行し、「踊る建築」を実現しようと思いました。

●自力建設はどのように始められましたか？

一級建築士の資格を持っているので、自分で設計図を書き、構造計算は専門家にお願ひし、確認申請を通しました。鉄筋コンクリートの壁構造で地下1階、地上4階です。そして2005年11月に着工しました。

まず、地下を掘ることから始めました。重機を使って掘る業者を探したのですが、いくら探しても見つからなかったのが、ひたすら、スコップとツルハシを使い、人力で掘りました。地下を掘る作業だけで1年かかりました。歴史のある場所だったので、掘ると江戸時代の藩邸の土台と思われる300kgもある大きな石も出てきました。

完全自力建設で、朝9時から午後5時まで、土日も休まず、ほぼ毎日現場で働きました。多くの時間は一人で行いましたが、最後の数年はたくさんの友人たちが作業に参加してくれました。

●建設資材はどのように調達しましたか？

建設資材は、主にホームセンターで買いました。コンクリートの質を決める砂と砂利は良心的な生コンクリート屋さんから買うことができました。通常よりセメントの量を多くしたので、水セメント比が小さくなり、良質なコンクリートに仕上がりました。建物は200年以上もつと言われました。

●コンクリートの壁はどのように造られましたか？



自力で建設中の岡さんと友人

壁はまず鉄筋を組み、そのまわりに型枠を設置してコンクリートを流し込みます。この建設では、一つの型枠の高さを手で扱いやすい70cmにしました。70cmの型枠を使うと、その場でいろいろな表情を付けられるため、即興でできる「踊る建築」を実現する

にはぴったりでした。また、型枠に農業用ビニールを使ったら、魚のうろこのようなおもしろい表情の壁になりました。

●この建物は、三田三・四丁目地区第一種市街地再開発事業の区域に入っていますね。再開発事業との調整はどうされましたか？

ある日、突然、スーツを着たデベロッパーの方が訪れ、相応の補償をするから、壊してくれと言われました。断ると、何度も来られて、あの手この手で説得しようとされました。

しかし、多くの人がこの建物は残すべきだと言ってくださったので、建物ごと10m、後方に曳家をすることになりました。

●マスコミなどで随分取り上げられましたね

タモリ倶楽部やビートたけしさんの番組、新聞各紙でも取り上げられました。

ほかにも、いろいろな人が訪れてくれています。藤森照信さんは2度来られていますし、イギリス・ロンドンにある、世界でも著名な私立建築学校AAスクールの学生も毎年来られています。

●この建物はいつ完成しますか？

トイレなどの設備やサッシを入れて、来年の春までには完成する予定です。一つの芸術作品と評価し、ずっと残してくれる方がいれば、売りに出すつもりです。

この土地に建設してよかったと思います。地域に知識人が多く、皆さんに応援していただいています。建築学会や慶應義塾大学が近くにあり、クウェート大使館や普連土学園などの名建築もあります。地域の名所になればと思っています。



蟻鱒鳶ルの内観

◆片桐 義雄さん(84歳)



高輪三丁目(当時は下高輪町)に生まれ、現在も高輪にお住まいの片桐義雄さん。戦前から写真館を営まれていた父・鉄雄さんが戦地に赴いた時に、母・芳子さんとの間で多数交わされた手紙を見せていただきながら、開戦前の高輪での日常生活の様子や山の手空襲後の高輪の様子を伺いました。また、終戦後間もない頃のご自身の生活の様子なども聞かせていただきました。

高輪での日常生活の様子 昭和16(1941)年9月から12月

私が3月に生まれた後、父は6月に再招集され、釜山から満州、台湾へと転戦。その中で、母から戦地の父にあてた手紙です。

防空演習や警防団の訓練や炊き出し訓練の様子、魚が配給制になり、使用人を含め5～10人の家でやっと秋刀魚が2本、イカが3杯だけ買えたこと、父がまいていったナス、インゲン、トマトを収穫し子どもたちが喜んで食べたこと、小松菜やチュウリップを植えたので芽の摘み方や手入れの仕方を教えてほしいということ、毎日10～15組のお客さんがみえて順調だが、自分ができず他人に頼む仕事ゆえ辛いこと、写真の材料も組合を作り配給制になったことなど、諸々の日常生活について細かく書かれています。

山の手空襲後の高輪の様子 昭和20(1945)年6月

父は昭和18(1943)年3月に除隊し高輪に戻り、母と子ども3人は山の手空襲前に長野県(父の実家)に疎開しました。一人残り5月の山の手

空襲にあった父から疎開先の家族へあてた手紙です。

自宅まわりや店が入っていた京浜デパートは焼け残り、6月11日から店を再開。焼けて住んでいる人がいないわりには21組の撮影があったこと、海軍の兵隊さんの個人写真を120組撮影したこと、買い物は一切だめなこと、売りに出された家と自分の店と配給所以外は1軒もないこと、高輪もいずれ焼けるだろうから一切を防空壕に埋めてしまっていること、一切を手を持たず、とにかく体の安全に全力を注ぐので少しも心配いらないこと、「今は一度くらい焼けないと肩身が狭い感じ」などの心境がつつられています。

終戦後疎開先から東京に戻った頃の 当時の様子や片桐さんのその後

私は昭和21(1946)年に森村幼稚園に入り、卒業写真には竹田宮様がいっしょに写っています。翌年には森村学園小学部に入學しました。高輪三丁目近辺はお屋敷町で戦災にあわずに残り、近所の道路が子どもの遊び場でした^①。品川駅は米兵のたまり場で京浜デパート地下のダンスホールはにぎわい、父の店も米兵の撮影で大繁盛でした。デパートは雑貨や洋食器など米軍の放出品販売でにぎやかで、我が家にも電気掃除機がありました。戦争の最中、日本と戦地間でこれだけの数の手紙やはがきのやりとりがよかったです。のだと改めて思います。



畑での収穫の様子

地域のあしあと

戦中・戦後の高輪

昭和20(1945)年、太平洋戦争の終戦から今年はちょうど80年になります。港区は世界の恒久平和と核兵器の廃絶を広く訴えるため、昭和60(1985)年8月15日に「港区平和都市宣言」を行いました。この高輪地区でも大空襲などにより大きな被害を受けました。このような戦争を二度と起こさぬよう、戦争を体験した方々の記憶からその悲慘さを後世に伝えるために、戦中、戦後の体験談をまとめました。



◆廣瀬 房代さん(90歳)

現在、白金台にお住まいの廣瀬房代さんは、戦争当時浅草にお住まいでした。浅草は昭和20(1945)年3月10日の東京大空襲により甚大な被害を被った場所です。大空襲時の記憶をお話いただきました。

隣家の家族と避難

当時10歳だった廣瀬さんは空襲があった時、母親と隣屋の家族と一緒に避難しました。普段は左官工を営むお隣の機材を収納する穴に退避されていましたが、大空襲の時はここに留まらず、すぐに遠くへの避難を決意されたそうです。



3歳の頃の三社祭での廣瀬さん

4 みんなと結ぶ「へいわ」～港区平和都市宣言40周年～

◆島崎 久子さん(88歳)

高輪地区の戦中、戦後をよく知る島崎久子さんにお話を伺いました。

島崎さんは、昭和20(1945)年6月に疎開するまで高輪にお住まいだったので、同年3月の東京大空襲、5月の山の手の空襲を経験されています。

空襲と火災

3月の東京大空襲では、父が親戚の多く住んでいた浅草に探しに行き、入れ違いにおばがほうほうの体で高輪の家に逃げてきました。

家には縁の下に掘った防空壕があり、東京湾に飛行機が落ちるとその響きが地面を伝わってきました。そのうち、家が燃えるとかえって危険なので、防空壕を使わないようにと指令がありました。

5月には、落ちてくる焼夷弾や、四ノ橋方面や今の高輪消防署の所に門があった伊達屋敷が炎上するのを目にしました。家のあたりにも大きな火の粉が降ってきましたが、近所の皆さんが、高台の防火用水から引いたホースで水をまいてくれたので、家は焼けませんでした。

B29が白金台に墜落

墜落したB29を見に行きました。天神坂の上の方に何かヒラヒラと落ちてくる―それが飛行機でした。墜落したところを見に行くと、胴体は白金台の医科研の入口のイチョウの脇を抜け、溝にはまり込んでいました^④。翼の片方は電話局、もう片方は白金小学校のあたりに落ちていました。落下傘で脱出した搭乗員が電話局あたりの電線に引っかかりぶら下がっていたなんて話も聞きました。

あと印象深かったのは、米軍機がまいた銀紙ですね。木に引っかかってキラキラときれいだな

と思いました、「危ない、触っちゃいけない!」と怒られました。



つらかった疎開

昭和20(1945)年6月、小学3年生の時に長野県内に疎開しました。当時通っていた白金小学校からの集団疎開ではなく、父が勤める工場の疎開先でした。

転入した地元の小学校では、はじめは同級生に「明るい色の服装や東京の言葉が生意気!」と言われ、随分とつらい思いをしました。一時は言葉が出なくなったりもしました。でも、野菜の作り方を覚えたりしてだんだん仲がよくなりました。長野には昭和24(1949)年6月までいましたが、東京に戻る時に「この土地のもんになっちまえ」なんて声もかかりました。

町工場の街だった白金・高輪

今の白金一丁目あたりはもともと町工場が多かったのですが、空襲ですっかり焼けてしまいました^⑤。でも戦後の復興は早かったです。今、クイーンズ伊勢丹があるあたりも工場が多く、工具さんであふれていました。

家の工場でも、自動車関係の仕事が多く入るようになり、スーパーカブ向けの部品の大量の注文をこなすのに大忙しでした。

その後、昭和39(1964)年の東京オリンピックに向けた道路整備のための立ち退きや移転がきっかけとなり、街の様子が変わっていきました。

◆磯邊 晃さん(87歳)

当時、三田四丁目にお住まいだった磯邊晃さんにお話を伺いました。

戦前、戦中の三田

東京大空襲で自宅の建物を失い、父も戦死し、生活に苦労しました。

生まれた頃から、三田のキリスト教会前の家に住んでいました。当時では珍しい木造3階建てでした。普連土学園の幼稚園に通った後、御田国民学校(現在の御田小学校)に通い、1年生の時、空襲が始まり、長野に疎開しました。三田の自宅は従兄に住んでもらいました。



七五三の写真(磯邊さんと妹さん)

従兄の話では、昭和20

面に進みました。当時、墨田川近傍は炎で退路をふさがれた人たちが逃げ場を失い、多くの人命が失われたことを私たちは知っています。お母さんは関東大震災も経験されたとのこと、その時と同じような光景が教訓として頭よぎったのかも知れません。「上野の山近くまでたどり着き、上野駅構内を通ろうとすると、駅を警衛している憲兵から『駅は敵の標的だ。通ってはいかん』と止められましたが、普段無口な母が「生きるか死ぬかは私たちで決めます。ここを通してください!」と叫んだのです。もしここを通れなかったら引き返して山を迂回する必要があり、私たち家族はどうなっていたかわかりません」

こうして10万人もの死者を出したといわれる未曾有の東京大空襲の中、お母さんの機転と勇気が、家族全員の命を救う奇跡をもたらしたのです。



わがまちの保育園紹介

子育て支援の拠点となっている保育園ですが、それぞれに子どもたちの健やかな環境を考えた特徴があります。
ここではわがまち高輪地区の保育園を紹介します。

愛星保育園



村岡園長先生

「愛星保育園」は東京メトロ南北線・都営三田線「白金高輪駅」より徒歩約7分、通りから少し入った閑静な場所に位置しています。港区の私立認可保育園の中で長い歴史をもつこの園は、戦後の混乱期にカトリック教会に集う学生たちのボランティア活動から生まれました。村岡園長先生にお話を伺いました。

「一番大切にしているのは、”子ども親も職員も、共に育ち合う”ことです。子どもたちの成長だけでなく、園に関わるすべての人々が互いに学び合い、育ち合える環境づくりを目指しています。



読み聞かせの様子

保育園の前には公開空地があり、園児たちは毎日のようにそこで遊びます



私立認可保育園（定員70名）

社会福祉法人 東京聖ビンセンシオ・ア・パウロ会

混合保育では、異なる年齢の子どもたちが一緒に活動することがあります。年上の子が年下の子を自然と気遣ったり、年下の子が年上の子に憧れたりすることで、言葉で教えるだけでは得られないやさしさや思いやりの心が育まれます。また、長く勤めている先生が多いため、卒園した子が大きくなって制服姿を見せに訪れるなど、家族のような温かいつながりが続いています。

園の行事の中でも特に力を入れているのがクリスマス祝会です。イエス様のご誕生をお祝いする本来の意味を大切に、1ヶ月かけて子どもたちはイエス様をお迎えする心の準備をしています。子どもたちがオペレッタ(歌で進行する劇のこと)に取り組む姿は園の伝統となっており、1歳児の子どもでも鼻歌で歌うほどなじんでいます」

- 港区高輪1-27-40
- 開設 昭和33(1958)年1月(認可保育事業開始)

かつて、高輪皇族邸でドングリを拾って子どもたちが作品を作ったことから、上皇陛下、上皇后陛下との交流



保育園の建物

につながったエピソードを伺うこともできました。

園舎の改修工事が行われ、令和7(2025)年度から定員70名に増員されました。半世紀以上にわたり地域を見守ってきた愛星保育園。子どもたちや先生方の笑顔や生き生きとした姿がとても印象的でした。

クリスマスに行われる聖劇



港区立白金保育園

区立認可保育園（定員99名）

- 港区白金3-10-12
- 開設 昭和24(1949)年4月



佐々木園長先生

「白金保育園」は東京メトロ南北線・都営三田線「白金高輪駅」より徒歩約7分、白金商店街に面し、白金いきいきプラザに隣接しています。近くに高層マンションが増えてきましたが、

周辺は緑も多く、昔ながらのやさしい町並みが残っています。佐々木園長先生にお話を伺いました。

「日々の保育の中で、子どもたち一人ひとりの声に職員が耳を傾けて、子どもの気持ちに寄

り添うようにしています。『子どもたちの声がよく聞こえる園』です。夏祭り、運動会、園外保育などさまざまな行事がありますが、今年初めて、園全体で年間テーマを一つ決めることにしました。今、子どもたちが興味を持っている『妖怪』をテーマにしてファンタジーの世界を楽しみます」

取材日に、ちょうどこの妖怪をテーマにした活動を拝見することができました。「カッパさんからのお手紙」をヒントに、4歳児クラスの子どもたちが先生と一緒に園内を探検しました。元気に走り回り、お手紙の内容を話し合う中で、遠足の招待状を見つけることができました。子どもたちの笑顔が広がる中、先生たちも一緒に楽しんで

いる様子を微笑ましく感じました。

園庭では食育の一環として、畑やプランターで、スイカ、ナス、ピーマンなどの夏野菜を育てています。「カッパにあげたい!」という思いから、キュウリも育てているそうです。できた野菜は給食室で調理してもらいます。自分たちで収穫した野菜はいつもよりおいしく感じるようです。

区立保育園の役割や理念、そして「いっぱい

あそぼう! いっぱい考えよう!」という目標をユニークに実践されていました。

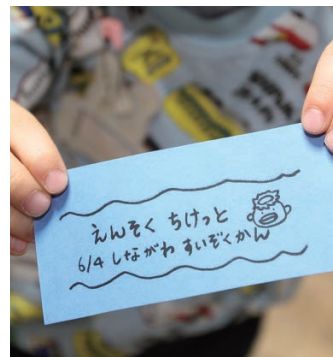


保育園の建物



カッパさんから、いろいろなヒントが出されて、園内をめぐり、宝探しを楽しみます。次のヒントは何か?

たどり着いた先は屋上。水族館への招待状を手に入れました



手に入れた招待状を見せてくれました。カッパだ。やったね!



外で遊ぼう「みなそとプレーパーク」

「やってみたい!を、やってみよう」を合言葉に、主に高輪地区(高輪森の公園、亀塚公園)で活動するNPO法人「みなと外遊びの会」が、港区のまちづくり課の支援を受け運営している“遊び場”「みなそとプレーパーク」にお邪魔しました。

自分たちが子どもの頃、田んぼや原っぱで遊ぶことができて恵まれていたと思います。そこには力の強い子や意地っ張り、小さな子、体の弱い子などいて、混ざり合って遊ぶなかで、人との向き合い方、思いやり、自然の楽しさなどを教わった気がします。

「みなそとプレーパーク」は、可能な限り、子

どもたちが「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした、大人も子どもも誰でも一緒に楽しめるワンダーランド。泥んこ遊びや、弓矢と的を作る子、ロープを張ったブランコに乗ったり、捕まえたトカゲを見せに来る子もいます。安全面や手伝いなどのケアはプレーリーダーと呼ばれる方々がやっています。

会の理事長、木下久仁絵さんは「お母さんの抱っこから離れられなかった子が、ここに来て自ら遊ぶようになったのを見たとき、とてもうれしかった」と話してくれました。ここにいると、地域の子どもの成長を一緒に見守る仲間になります。



みなそと
ホームページ

高輪森の公園では、基本的に日・月・火・水に開催され、「おいでの日」、「0、1、2、3歳外あそび」、「パパ部」などいろいろな企画があります。亀塚公園では、「あそびのきち」として第1～3水、また木曜日は乳幼児親子向けの事業が行われています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

費用も予約もいりません。お父さん・お母さん! お子さんを誘ってぜひ一緒に。着替えのご用意もお忘れなく。



▶木下理事長

(担当/三富、平尾、安藤、清水、丹羽)

▼ブランコ設営中



▲小さな子も交流

▼ロッククライミングに挑戦



想像以上の激しいスポーツ ガンバレ! HEPBURNS!!

明治学院大学
ラクロス部男子

5月まで掲げられていた明治学院大学白金キャンパス正門横の黄色い横断幕をご覧ください。今回は、そのラクロス部男子のご紹介です。

●ラクロスって

アメリカ先住民族の競技にルーツをもち、そのスピード感と体のぶつつけ合いの激しさから『地上最速の格闘球技』と言われています。1チーム10名ずつが15分×4クォーター、交代自由で得点を争います。日本で本格的に普及が始まったのは、昭和61(1986)年に慶應義塾大学にラクロス部が誕生してからとか。2028年ロサンゼルスオリンピックでは120年ぶりに競技として復活することが決まっています。

●全日本大学選手権 準優勝!!

明治学院大学ラクロス部男子は、昭和63(1988)年に創部され活動が続けてきました。チームの呼称は、明治学院の創設者で、ヘボン式ローマ字を考案したヘボン博士(1815～1911)の姓の英語名から採った「HEPBURNS」。

昨年、関東学生リーグ戦、全日本大学選手権を勝ち進み、決勝で慶應義塾大学に敗れたものの、見事準優勝を勝ち取りました。

4月末、横浜キャンパスのグラウンドで熱気あふれる練習を実際に見学し、その迫力に度肝を抜かれました。これほどまでに激しいスポーツとは…。練習後、本年度主将の野口瑠輝也さんに話を伺うと、「初心者でも大学日本一を目指したいと思い入部しました。シーズン



中は朝4時起床、7時から横浜キャンパスで朝練習、白金キャンパスに移動して授業、夜はアルバイトです。教職課程も取っているのも忙しい毎日です」とのこと。スゴイ!!



部の特徴は「部員約90名、和気あいあいさとし楽しさもありつつ、メリハリをつけて真剣に向き合う仲間たちの集まり」。今年の目標は?との問いかけに対しては間髪を入れず強い言葉で『学生日本一です』とおっしゃいました。

●取材を終えて

昨年の準優勝はうれしかったけど、決勝では歯が立たず、日本一は甘くなかったとのこと。今年のリーグ戦は7月から。練習に励む部員たちの純粋な眼差しに思わず応援をしたくなりました。今年のシーズン、さらなる高みを期待しています!

(担当/清水、阿部、三富、堀井)



ラクロス部男子
ホームページ



小さな球の奪い合い。体をぶつけてもOK



走る、走る、走る。その運動量は相当たるもの



社会人チームに胸を借り、フェイスオフの練習



TAKANAWA
HOPWAY
通信

54号で紹介したビールづくりのためのホップ栽培の経過をご紹介します。当初(2021年度)は、9拠点で栽培していましたが、現在は、24拠点まで広がっています。今年度(2025年度)は、3月27日にまじらきをしたTAKANAWA GATEWAY CITY内の施設である「Gateway Studio」でも栽培を始めました。Gateway Studioは高輪ゲートウェイ駅北改札を出てすぐですので、ぜひ、お立ち寄りいただき、生育状況を見ていただけると嬉しいです。みんなで見守り、育てていきましょう!



どんどん
成長中!

みなとぶ

区からのお知らせ



高輪地区総合支所の公式X（旧ツイッター）では、地域のできごとをはじめとした様々な情報を発信中。ぜひフォローをよろしくお願い致します！ @minato_takanawa



令和7年度港区総合防災訓練（高輪会場）のお知らせ

令和7年度港区総合防災訓練（高輪会場）を以下のとおり実施します。初期消火訓練や子ども向けの防災訓練のほか、事業者による普及啓発活動などを実施する予定です。ぜひご参加ください。

- 日程 令和7(2025)年11月9日(日)
- 時間 9:30～11:30
- 場所 港区立高松中学校
- お問合せ先 高輪地区総合支所 協働推進課 協働推進係 ☎03-5421-7621



オンデマンドモビリティ（乗合交通）「みなりの」の実証運行中です

令和7(2025)年9月まで、高輪地区において民間事業者によるオンデマンドモビリティ「みなりの」を実証運行中です。運行開始以降、幅広い世代の方にご利用いただき、特に子育て世代の方にご活用ください。詳しくは二次元コードからご確認ください。

- お問合せ先 「みなりの」カスタマーサポート ☎050-2018-0107(9:00～19:00)
- ※オペレーターに「みなりの」もしくは「東京都港区」とエリア名をお伝えください。



商店街バズらせプログラム

港区内の商店街をモチーフにしたオリジナルポーチのカプセルトイを販売しています。ポーチデザインは全10種類。ぜひお気に入りGETしにきてください！

- 販売価格 各300円
- 販売場所 札の辻スクエア(港区芝5-36-4)
- ※今後、商店会イベントに出展する場合があります。
- お問合せ先 産業・地域振興支援部 産業振興課 産業振興係 ☎03-6435-4601



コミュニティ・カフェ高輪

高輪地区CCクラブ、高輪地区総合支所協働推進課、高輪区民センター、そして地域の方が自由に参加できるカフェです。高輪区民センター2階展示ギャラリー前では毎月第2・4金曜日13:30～15:30(12月と8月の第4金曜日は休み)で、ゆかしの杜の6階区民協働スペースでは毎月第3金曜日13:30～15:30(8月休み)で、HUG高輪では毎月第3火曜日(8月休み)にミニ講演会(14:00から)か、カフェ(13:30～15:30)を開催しています。HUG高輪では毎月いろいろなイベントを企画しています。また、ゆかしの杜カフェでも楽しい企画を行っています。詳細は港区掲示板、高輪地区デジタルサイネージ、いきいきプラザなどのチラシでご案内します。

地域の方が交流できる場所としてコーヒーを飲み、そしてお話ができる場所ですので、気軽にお出かけください。

- お問合せ先 高輪地区総合支所 協働推進課 地区政策担当 ☎03-5421-7123



ゆかしの杜の6階区民協働スペースカフェ(2025年1月)

高輪消防署 火災による死者ゼロ10年達成!!

高輪消防署では、令和6(2024)年10月18日に「火災による死者ゼロ10年」を達成しました。地域の皆さまの日頃からの防火防災活動へのご協力に、署員一同、心より感謝申し上げます。

7月になり暑い日が続きますが、日々訓練を重ねて、これからも高輪消防署管内の安全・安心を守っていきます。引き続き、消防行政へのご理解をお願いいたします。



毎週水曜日は午後7時まで受付

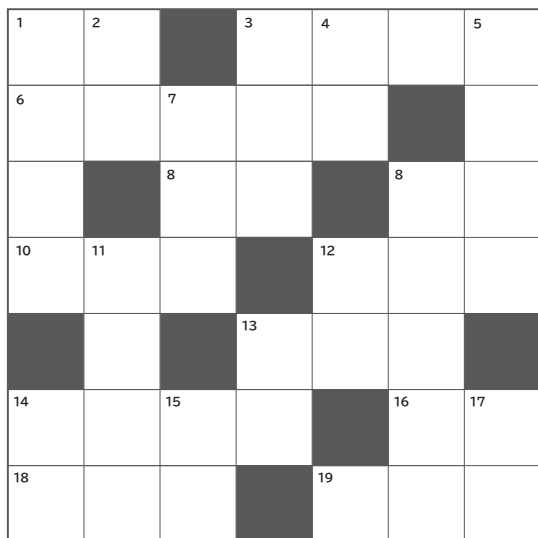
※取扱業務は限定されます。事前にご確認ください。

区民課窓口サービス係 ☎5421-7612 / 保健福祉係 ☎5421-7085

区民編集メンバー考案!

クロスワードパズル

高輪縦横無尽



タテのカギ

- 2028年ロサンゼルス大会で、120年ぶりにオリンピック正式競技として復活する、地上最速の格闘球技 ➡ヒント:P7
- この世でただ一つしかないこと。他に同類のものがなく、その一つ以外並ぶものがないこと。唯一〇〇
- 皮がむきやすい小型の柑橘類の総称
- 絵になるような取り合わせのよいもののたとえ。〇に千鳥
- ゲームに使われるだけでなく、占いや手品の道具としても広く活用されている
- 二つ組み合わせると一組となるもの。特に、雌と雄。
- 内臓から取れる「パープル線」と呼ばれる分泌腺があり、古くからその分泌腺を染料として利用されている巻貝
- 寝る時に着る衣類。寝間着
- たもち続けること。持っていること。記録〇〇者
- 70歳のお祝い
- 一家の系譜や歴史を記録したもの
- 水上に浮かべて目印とする浮標
- 熟睡していても何もしないこと。白〇夜船

ヨコのカギ

- パソコンが動作しているときに一時的にデータを保存する主記憶装置
- やってみたいをやってみようが合言葉の遊び場『〇〇〇プレーパーク』 ➡ヒント:P7
- 神道において、土地の神や、天孫降臨以前からその土地に住んでいたとされる神々
- 首領を先頭として列を作って飛び習性がある。枕詞は「遠つ人」
- 物事を心配したり、あれこれ考えるより、実際にやってみたら案外簡単。〇ずるより産むが易し
- 秘密裏に敵や競争相手の情報を収集する人物。諜報員
- ビールに独特の苦味や香り、泡立ちをもたらす、また、抗菌作用や清澄作用も持つ植物 ➡ヒント:P7
- 日本の日本神話を含む歴史書。現存する日本最古の書物
- ススキやヨシ、藁などを使用して葺く屋根。〇〇〇屋根
- 絵画を制作することで生計を立てている人のこと
- 松江藩の第10代藩主。江戸時代の代表的茶人のひとり。松平〇〇 ➡ヒント:P2
- 令和7年度に、港区は〇〇都市宣言から40年を迎えます ➡ヒント:P5

答えはこのページの一番下

(担当/飯島)

各支所で、地域情報紙(情報誌)を定期的に発行しています

- 芝地区総合支所「しばタグ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」

- 高輪地区総合支所「みなとつぷ」
- 芝浦港南地区総合支所「べいあつぷ」

支所内各戸配布のほか、港区立図書館(高輪図書館分室を除く)・各いきいきプラザで閲覧することができます

本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。

みなとつぷ バックナンバー

編集だより

55号

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

区民編集メンバー

安藤 洋一(チーフ) 清水 徹夫
大友 登喜雄(サブチーフ) 田中 康造
阿部 泰 丹羽 彩子
飯島 真弓 平尾 恭一
岡田 薫 堀井 由里子
川野 まりえ 松田 亜希子
小林 由夏 三富 和則
佐々木 智秋 村田 志織里
真田 晃 森 佳夫

※50音順

- ▶知り合いの方が野生のタヌキの動画の撮影に成功しました。場所の詳細は伏せますが高輪三丁目あたりです。こんな自然環境を維持したいですね。(阿部)
- ▶生涯かけて、自力で一つの建物をつくるという岡啓輔さんの建築に対する情熱に感動しました。(安藤)
- ▶今号も誌面づくりを通して、言葉にしきれない充実感を味わっています。ふだん見えない風景や想いが現れます。(飯島)
- ▶片桐さんのお母様の手紙や当時の写真を拝見し、その時々々の想いが込められた貴重な戦争遺産と感じました。(大友)
- ▶都会とは思えない静けさに満ちた荏原 皇山美術館。新館はもちろんのこと、自然光を活かした本館で井戸茶碗を愛でるのもおすすめです。(岡田)
- ▶どちらの保育園も、先生方の熱心な取り組みや、やさしい接し方に感心しました。子どもたちの生き生きとした楽しそうな様子を見て、こちらも楽しいひとときでした。(川野)
- ▶通るたびに何だろう?と気になっていた蟻舘。岡氏の熱い想いが伝わってきました。(小林)
- ▶区からのお知らせ「高輪消防署 火災による死者ゼロ10年達成!!」掲載のお手伝いをしました。地域の皆さま、消防署の皆さまと共に、これからも安心安全な町を守ってゆきたいです!(佐々木)
- ▶焼夷弾による空襲を実際に体験された方のお話、紅蓮の炎が目前に迫るようなリアル

- さに圧倒されました。(真田)
- ▶明治学院大学の取材に行きました。学生さんたちが好きなことに燃焼し、楽しく充実した学生生活を送れる時代が続いてほしいと、改めて願う機会になりました。(清水)
- ▶戦争を経験された皆さまが命がけのドラマをお持ちであるという当然のことを、改めて思い知らされました。(田中)
- ▶春から編集委員となり、高輪地区の魅力を発信できてうれしいです。美術館や保育園の取材を通して、文化の豊かさや地域の温かさを感じました。(丹羽)
- ▶今号からの編集参加ですが、すぐにさまざまな現場に行けてとても楽しかったです。特にクロスの迫力をお伝えしたいです。(堀井)
- ▶「みなとプレーパーク」取材して、「缶蹴り」にワクワクしていた自分を思い出しました。(三富)
- ▶皇山美術館の館内もお庭も素敵でした。ぜひ足を運んでいただきたいです。(村田)
- ▶初めて編集に参加しました。改めて高輪の魅力を発見しました。(森)



買い物するなら地元の商店街で